

これがあるからがんばれる！ 私のオフタイム

(最終回)

OFF TIME

今月の趣味の達人

特定医療法人共和会共和病院

松下直美さん

(50歳・精神科看護師歴22年)

クラウン活動



勤務する共和病院の近隣の子どもたちと

始めたきっかけは？

高校時代は演劇部に所属し、社会人になってからは懇親会の幹事なども率先してやるタイプ。もともと「人を楽しませる」のが好きでした。現場のスタッフだったころは患者さんと直接かかわる時間を多く取れましたが、10年前に看護部長になってからはなかなかそのようにはいかず、無意識のうちに「人を楽しませて、自分も楽しめる活動」を求めているのかもしれませんが。ホスピタルクラウン（クラウンに扮して病院などを慰問する）の活動を知って、チェルノブイリ周辺の小児病院などを訪れるツアーに同行したのが4年前。クラウンになりきるための化粧法や表情のつくり方、歩き方、バルーンの技術などを講習会や先輩の指導から習得し、現場で経験を積んできました。

活動内容・実績は？

月に1回、市内の駅前朝市に参加するほか、施設に呼ばれて高齢者に向けたバルーン教室を行っています。また、勤務する病院だけでなく、他院のお祭りなどにも行かせていただき、パフォーマンスを行っています。

醍醐味は？

目の前の人笑顔になって、目をキラキラと輝かせながら「楽しかった！」と言ってくれることが一番うれしいです。病院では、反応がわずかなご老人が一生懸命反応しようとしてくださる姿に感動します。

仕事への影響は？

仕事を離れてのボランティア活動で少しでも社会貢献できているという実感が、仕事に注げるエネルギーの源になっています。また、私がクラウンとして参加した朝市で出会った地域の方が院内の文化祭に出店してくださるなど、外部との連携につながるきっかけも生まれています。地域の福祉事業者とのネットワークを促進してくれる点も魅力です。

あなたにとってクラウン活動とは？

「喜」であり「楽」。人を楽しませることに集中できる至福の時であり、おまけに「ありがとう」と言ってもらえる最高の時間です。今後も無理のない範囲で続けていきたいと思えます。

上質な暮らしは、上質な眠りから

東洋羽毛マンスリーレター



もうご覧になりましたか？

アール・ブリュット・羽毛ふとん「みるね」

東洋羽毛は、高品質の羽毛ふとんづくりを通じてできる社会貢献活動として、世界初の試み、「アール・ブリュット作品と羽毛ふとんのコラボレーション」を実現しました。繊細なタッチが美しい松本寛庸さんの作品『国盗り絵巻』を絵柄としてプリントした「みるね」は、昨年の学術集会（広島県）で初お披露目され、好評をいただいております。ご興味のある方はいつでもお気軽にお問い合わせください。

